



すわべ たかとし
諏訪部 孝敏 議員
(至誠)

認知症施策の現状と高齢者の支援について

問 認知症施策の強化は待ったなしの最重要課題である。富士宮市で安心して暮らせる老後のために、地域づくりなど認知症患者を支える当市の今後の本格的な取組について伺う。

部長 認知症に対する理解の普及啓発のため、認知症サポーター養成講座の開催、認知症キャラバンメイトの活動支援を行い、これらの活動を認知症の人やそのご家族とともに進めることで、当事者の声の発信や活動の場につなげている。さらに、認知症サポート医を中心とした認知症医療研究会、認知症になっても安心して生活できる仕組みづくりや、一人一人が尊重される共生社会の実現に向けた取組として、見守り・SOS ネットワークの構築、若年性認知症の方の相談や居場所の充実、成年後見制度の利用促

進の取組などを先進的に進めている。

外国人労働者の受入れについて

問 外国人労働者の環境変化に対応した多文化共生に取り組む施策について伺う。

部長 市では、外国人相談、外国人が地域防災訓練へ参加するための地域への支援など、生活に直接関わることを実施している。また、富士宮市国際交流協会では、様々な交流事業や国際理解力向上のための講座、外国人の生活を向上させるための日本語教室などを協会の会員である市民とともに実施している。

ICTを活用した行政改革について

問 スマートフォンアプリを活用した通報システムの導入を提案するが、当市の見解を伺う。

部長 市では、11月12日に「富士宮市公式ライン」を開設した。ラインには様々な機能があり、行政サービスにおける活用事例がいくつかある。このラインの通報機能を活用した通報システム導入検討の中でその対応を研究していきたいと考えている。



ほそがわ さとし
細沢 覚 議員
(至誠)

今、小学校が抱えている諸問題について。将来の富士宮市を背負っていく子どもたちの気持ちになり、以下伺う。

問 これからの富士宮市を背負っていく子どもたちをどのように育てていくか、市長に伺う。

市長 第5次富士宮市総合計画において、10年後の富士宮市の目標である将来都市像として、「富士山の恵みを活かした元気に輝く国際文化都市」の実現を掲げている。市民の幸せと、それを次の世代を生きる子どもたちにつなげていくために、今後も強い責任感と高い志を持ってまちづくりに挑んでいく所存である。

問 小学校のトイレ改修の進捗状況を伺う。

部長 市内の小・中学校ではトイレの老朽化が進んでいることと、和式トイレの利用に慣れない子どもたちも多いことから、毎年大規模改修

工事やトイレの破損などの修繕時において、和式便器を洋式便器に順次改修を進めている。

問 学校周辺での不審者増加対策に伴う防犯カメラ設置に対して伺う。

部長 市内全ての、公立保育園とあすなる園に防犯カメラを設置した。令和2～4年度までに市内全公立小学校に設置する計画となっている。

問 新型コロナウイルス感染症による休校で子どもたちの心理的影響から、授業、不登校、いじめに対する対策はどうなっているのか。

教育長 主体的・対話的で深い学びの視点から、授業改善が求められているが、特にコロナ禍において可能な対話的学びについて、各校には意識して研修や授業に取り組んでいただいている。

東京オリンピック・パラリンピックについて

問 人工芝競技場実現への市長の考えを伺う。

市長 山宮ふじざくら球技場を人工芝球場にすることで、山宮スポーツ公園を外神のスポーツ公園と並ぶ、大スポーツ拠点と位置づけ整備していきたい。